

2024年9月3日

各位

会社名 アンジェス株式会社
代表者名 代表取締役社長 山田 英
(コード：4563 東証グロース)

日本マスキリーニング学会 学術集会における「若手優秀演題賞」受賞のお知らせ

2024年8月23日～24日に熊本で開催された第51回日本マスキリーニング学会 学術集会において、当社が運営しているアンジェスクリニカルリサーチラボラトリー（ACRL）の研究者が発表を行い、「若手優秀演題賞」を受賞いたしました。

この発表は、ACRLにおいて実施している拡大新生児スクリーニング検査におけるムコ多糖症の陽性者に対する二次スクリーニングについての研究結果を発表したものです。

拡大新生児スクリーニングにおけるムコ多糖症の陽性者はおおよそ1,000～2,000人に一人の割合で発見されます。しかし、その後の精密検査で実際にムコ多糖症であると判明するのはそのうちの数十人のうち一人しかいません。この精密検査は、対象となる被験者が新生児であることから、その検体である尿や血液の採取は被験者やそのご両親と医療関係者双方に負荷がかかっています。また、生後間もない我が子が遺伝学的検査を受けることは、ご両親にとって精神的な負担が大きいものです。当社の研究者は、この両者の負荷をなるべく軽減するため、スクリーニング検査で使用したろ紙血を使用して、ムコ多糖症である可能性の高い被験者を選別する二次スクリーニングの方法を開発いたしました。この二次スクリーニングを実施することで、これまで拡大新生児スクリーニングで陽性となり、精密検査の結果ムコ多糖症ではないと診断される偽陽性の被験者を10分の1以下に減らすことが可能となります。これは、即ち精密検査の検体を採取する被験者やそのご両親、医療関係者の数を減らすこととなり、両者にとって大きなメリットになります。

学会での発表後、多くの医療関係者からこの二次スクリーニングの開始時期を質問され、ムコ多糖症における偽陽性が多い医療関係者の負担になっていることを改めて感じました。

ACRLでは、この二次スクリーニングを2025年の早い時期には受託できるよう、準備を進めてまいります。

また、ACRLではムコ多糖症以外のライソゾーム病についても、ろ紙血を使用した二次スクリーニング方法の開発に取り組んでおります。



さらに、この二次スクリーニングの方法を、治療効果のモニタリングや、初期症状が様々な疾患と共通する希少疾患の有無を調べるハイリスク・スクリーニングに応用する研究にも着手しております。

当社は ACRL の活動をとおりて、希少遺伝性疾患のスクリーニングから診断、治療に至る包括的な検査体制の提供を目指してまいります。

アンジェス株式会社お問い合わせ先

一般のお問い合わせ <https://www.anges.co.jp/contact/>

報道関係のお問い合わせ <https://www.anges.co.jp/press/>